

2026年1月

# 患者さまの声

ご意見箱は毎日確認し、各部署で対応しています。  
患者さまの満足する医療を提供するため改善に努めて  
参りますので、率直なご意見をお聞かせ下さい。  
また、直接のご意見・ご質問も随時承っております。  
どうぞお気軽に職員へお声かけ下さいませ。  
なお、返答には1ヶ月程度お時間をいただく場合がございますのでご了承下さい。



**TAKA** General  
**TSUKI** Hospital

# 患者さまの声

Q) 高槻病院に入院していた者です。

結論から話させていただくと、入院生活は最低でした。看護スタッフの皆さんは非常に努力していて対応も丁寧で好印象でした。しかし、同室者に一日中大声で叫ぶ患者がいたり、オムツ排泄による異臭があるため部屋移動をお願いしたのですが、部屋が空いていないとのことで聞き入れてもらえませんでした。せめて大声で叫ぶ患者だけでも移動できないかとお願いしたのですがセル看護方式というものを取り入れた関係でできないと断られました。セル看護方式については張り紙も見ました。

「看護師の動線を見直し、無駄を省いて患者に寄り添う看護」を実現とありますが、本当に患者のことを考えた方式でしょうか？部屋の前で椅子に座りカルテで陣取り、通ら道の邪魔でしたし、コンセントが転倒の危険性をはらんでいました。カルテばかり見ている患者は見えないように感じましたし、何よりほとんど全ての患者は看護師が部屋の近くに居座られることを嫌がると思います。常に監視されているように感じたり、近くにいるため非常に気を遣います。多くの他の患者も同じように言うており正直近くにいると欲しくないと思いました。患者のそばで看護を提供するを謳うのは一向にかまいませんが患者には確認したのでしょうか？看護師の無駄を省く目的で患者に確認もせず近くにいられるのは非常に不快極まりなかったです。

看護スタッフの方にセル看護について聞いてもほとんどがこの方式について疑問を持っており、働きにくいと答えています。動線を見直すとあるが、前より動線は増えている、もしくは変わらない。様々な部署に迷惑をかけている。また、科長に絶大な負荷をかけていると聞きました。ここまで現場が納得せず行われている看護方式はおそらく現場を知らない人間が考案し、無理やり進めたのでしょう。看護スタッフの方には非常にお世話になったため、毎日辛そうに働いている姿をみると心苦しく思います。現場看護師が納得のいく働き方をしないと患者の看護にも影響が出ることは誰でも予測できることです。今一度、セル看護について改めて考え直していただきたいと思います。このままこの看護方式が続けば、患者・看護師とも多大なストレスをかかえるように感じました。今回の入院で私が感じたように他の多くの患者も感じている方は多いと思います。現場看護師が納得できる働き方に変え、せめて患者のレベルを合わせた部屋割りにする、患者の近くで看護師が見張らないようにして下さい。よろしく願いいたします。



**TAKA  
TSUKI** General  
Hospital

# 患者さまの声

A) この度は入院中のお部屋や看護師が待機している場所などについて十分な配慮ができず、ご不快な思いをおかけしてしまい申し訳ありません。今回のご意見を看護部科長会で共有し、安全への配慮や患者様への対応について意見交換を実施いたしました。また、2025年12月から導入した看護提供方式の課題についても改めて見直す機会とさせていただきました。貴重なご意見を真摯に受け止め、より良い看護が提供できるよう取り組んで参ります。

Q) 母が転倒し救急で運んでいただきました。症状の説明、通院歴、飲んでいる薬などの質問、延命治療の有無などを質問された内科の医師（男性）の態度が威圧的で不快な気持ちになりました。待たされている間もこの後の対応など流れの説明もなく、必要なことを質問されるのみという感じでした。救急で患者家族も不安になり待っているのもう少し気持ちのある対応をしていただいた方がよいと思います。

A) 貴重なご意見をいただきありがとうございました。当該医師の所属する診療科の責任者より以下のメッセージが届いております。救急外来という切迫した状況で、患者様ならびにご家族様に対して不快な思いをさせてしまい、誠に申し訳ございませんでした。また、救急外来のため他の患者様への対応も必要であったものの、十分な説明の時間がとれず、ご家族様にご不安な思いをおかけしてしまい、お詫び申し上げます。以後は真摯に受け止め、対応改善に努めて参ります。



**TAKA  
TSUKI** General  
Hospital